

平成２８年度第１回安来市創生総合戦略推進会議

平成２８年７月２２日（金）午後２時～
安来中央交流センター講義室

- １．会議成立報告
- ２．議長副議長選出
- ３．議事
 - （１）安来市人口ビジョン及び安来市創生総合戦略
 - （２）人口の状況について
 - （３）総合戦略事業について

開会の挨拶

（横田部長）

失礼いたします。定刻になりましたので ただ今から、平成２８年度第１回安来市創生総合戦略推進会議を開会いたします。

本日は、ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。この会議は、会長が議長を務めることになっておりますが、任期が改まってからはじめての会のため、会長が不在になっております。会長の選出まで、政策推進部長を拝命しております、横田が進行を努めさせていただきます。

開会に先立ちまして、森脇副市長より一言ごあいさつ申し上げます。

（森脇副市長）

副市長の森脇と申します。よろしくお願いいたします。

平成２８年度第１回安来市創生総合戦略推進会議の開会にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は大変お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。委員の皆様には、日頃から安来市行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この会議は、人口ビジョン及び総合戦略に関しまして、市長の求めに応じて審議していただく機関でございます。市民の方をはじめ、多くの関係機関の方から構成されており、任期は平成３０年３月末までとなっております。

本日ご審議いただく安来市の人口ビジョン及び総合戦略につきましては、「まち・ひと・しごと創生法」の規定に基づき平成２７年１０月に策定したものです。策定時からご審議いただいた委員の皆様には大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。

さて、我が国は、世界に先駆けて「人口減少、超高齢化社会」を迎えており早急な対応が求められており、当安来市においても例外ではなく、市政運営上喫緊の課題となっております。

そのような観点から、当安来市においても平成２６年８月に「人口対策本部」を設置し、

取り組みを進めてまいりました。昨年度には、第2次安来市総合計画、人口ビジョン及び総合戦略も策定したところです。

国においても「地方創生」に続き、「一億総活躍」「しごと創生」「生涯活躍のまち」「働き方改革」「小さな拠点づくり」など様々な政策を展開しています。

これらを含めた「地域づくり」や「地域活性化」には、行政だけでなく、市民、関係団体、学識経験者といった幅広い分野の皆様にご意見をいただきながら進めていくことが不可欠と考えております。委員の皆様にはより一層のご協力とご指導をお願いするものでございます。

本日ご審議いただく総合戦略は、PDCAサイクルにより進行管理を行うこととしており、今回は、策定後、初めてのチェック・効果検証となります。忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたしまして、あいさついたします。

(横田部長)

続きまして会議成立について事務局より報告をお願いします。

(事務局)

本日は、3名の欠席があります。日立金属の和田議員は所用があり遅れて来られると伺っています。

そう致しますと、18名の委員の皆様の出席がございます。安来市創生総合戦略推進会議設置要綱第6条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、本会議は成立いたします。

なお、本会議は、原則、公開としております。本日はどじょっこTVがおられますのでご報告いたします。以上です。

(横田部長)

平成28年度に入り初めての会であること、また組織事情の関係から委員の交替もございます。委員のみなさまから自己紹介をお願い致します。

<各委員の自己紹介は省略>

(横田部長)

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

<事務局の紹介は省略>

(横田部長)

以上でございます。これ以降は植田課長に交替します。

(植田課長)

では、議事に入る前に、会長及び副会長の選任をさせていただきます。

この推進会議は、設置要綱第4条第1項の規定により委員のうち互選で選出していくことになっております。会長及び副会長の選出につきまして、推薦あるいは立候補はございませんか。

<推薦、立候補なし>

事務局案ではございますが、会長を足立委員、副会長を毎熊委員をお願いしたいと考え

ますが、みなさん、いかかでしょうか。

＜拍手により承認＞

皆さんのご同意を得ましたので、会長は、足立委員、副会長を毎熊委員にお願いいたします。では、会長、副会長、席を移動していただき、進行をよろしくをお願いいたします。

（足立会長）

失礼します。昨年度の策定から皆様とともに計画を作ってまいりました。今回からその評価、あるいは見直しを継続して行うということで、はじめに話があったとおり、これからも改善すべきは改善し、評価すべきは評価するという、色々な役目が課せられています。皆様との真剣な議論の中で、少しでも安来にとってよい施策が継続できる、あるいは対処できるということが実現できればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

（毎熊副会長）

失礼します。昨年から関わっておりまして、そのときも申し上げたと思いますが、計画は作って終わりということではなく、いかに実行するかが大事と思っています。その点でもしっかりと現実をみながら修正していくことが大事と考えていますのでこういう会議は大事だと思います。

国の方は一時期の熱気が冷めたような感じで地方創生というのはどこにいったんだろうかということもあります。しかし、地方は地方でしっかりとやっていかなければならないと思いますので、微力ではありますが頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（足立会長）

それでは、議事に入りたいと思います。（１）安来市人口ビジョン及び安来市創生総合戦略について、事務局より説明をお願いします。

＜堀江係長による資料確認は省略＞

（事務局）

今回から委員に就任された方もおられますし、前回の会議から時間も経過していますので、おさらいも兼ねて安来市人口ビジョン及び安来市創生総合戦略について配布資料に基づき説明させていただきます。

安来市では、昨年度、「総合計画」「人口ビジョン」「総合戦略」の３つを策定しています。

このうち、「総合計画」が市の最上位計画に位置づけられています。「総合戦略」は市の人口対策の計画であると同時に「総合計画」の重点戦略となります。１枚目の左側をご覧ください。「総合計画」の体系図を示しております。上から２段目に「総合戦略」が位置づけられています。

１枚目の右側をご覧ください。「人口ビジョン」及び「総合戦略」の策定体制をしましています。

右側下に本会議である「安来市創生総合戦略推進会議」が位置づけられています。本会議は、外部組織として「人口ビジョン」「総合戦略」について意見を述べていただくことになります。

続いて、「人口ビジョン」「総合戦略」について説明いたします。「人口ビジョン」は、「総合戦略」を策定するにあたり、人口の現状分析と将来展望を示したものです。

2枚目をご覧ください。左端が「人口ビジョン」の概要です。時間の都合上、詳細は省略しますが、安来市の人口は、1985年以降減少傾向にあり自然増減、社会増減共にマイナスで推移しています。これらの状況を踏まえた上で、2060年の将来人口目標を3万人、合計特殊出生率を2.07としています。

右側をご覧ください。「人口ビジョン」の目標を達成するために「総合戦略」を策定しています。「総合戦略」では、4つの基本目標と広域連携で構成されており、それぞれに数値目標が定められています。3枚目をご覧くださいますと総合戦略のイメージをご確認いただけます。『人口減少を抑制し、魅力的で持続可能なまちづくりを推進』し、2060年には3万人を維持することとしております。

以上、簡単ですが、安来市人口ビジョン及び安来市創生総合戦略について説明させていただきました。

(足立会長)

以上説明いただきました。以前からの委員の方は、この内容についてよくご存じだと思いますが、今回新たに加わられた方もいらっしゃいます。2020年で3.8万人、2060年で3.0万人という総合戦略の目標数値、出生率についても2060年においても2.07という目標数値を立てて、この総合戦略という数値になっています。

これはなかなか厳しい数値ということは以前からの委員の皆様はご存じですが、そのほかの方については、ピンとこないかもしれません。説明と資料をご覧くださいになって何か質問はございませんか？

<委員からの質疑なし>

(足立会長)

それでは、次の議事に入ります。(2)人口の状況について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

人口の状況について説明いたします。

1ページ目をご覧ください。議題(1)でも説明したとおり、総合戦略には4つの基本目標があり、それぞれに数値目標が設定されています。基本目標1から3については、最新の数値が確認できます。基本目標4はアンケートを実施時期が平成30年としているため平成27年度数値化しておりません。

基本目標1の数値目標は出生数です。平成26年度、平成27年度ともに目標数値である5年間平均の272人を達成できる範囲で推移しています。右側には参考として単年度ごとの合計特殊出生率を掲載しています。

基本目標2は20代の社会移動を指標としています。社会移動ですので転出、転入の状況となります。こちらは、安来市からの転出が、安来市への転入を大きく上回り、拡大する傾向にあります。20代の進学、就職の時期です。進学はともかく、就職については地

元就職が進んでいない可能性があります。

基本目標３は、３０代の社会移動を指標としています。こちらはわずかですが転入超過となっています。順調に就職、結婚、子どもの出産を経て住宅を建てる際に安来市を選択している、あるいは共働き夫婦が子育て環境から親のいる安来市で居を構えるなどが想定できますが、いずれにせよ経過観察が必要と考えます。右側には米子市と松江市の転入転出状況を掲載しています。

２ページ目をご覧ください。２０１０年から２０１５年の人口ピラミッド、人口３区分別推移を示しています。少子高齢化が伺えます。ちなみに人口ビジョンにおける２０６０年の人口３区分は、０～１４歳の年少人口１４．６％、１５～６４歳の生産人口が５２．７％、老年人口が３２．６％を目標としています。年少人口の割合が低い状況といえます。

３ページをご覧ください。２０００年から２０１５年までの１５年間の地区別の人口減少と高齢化を示しています。バブルがグラフの右上にあれば人口も増加し、高齢化率も低いですが、左下になれば逆に人口が減少し、高齢化が進んでいることを示します。地区により差がありますが、全体として左下、つまり人口減少と高齢化が進んでいることがわかります。

４ページをご覧ください。人口の自然増減、社会増減、つまり出生、死亡、転入、転出の状況を示しています。

自然増減、社会増減ともにマイナスで推移しています。ただ、社会増減については、転出が千人を切るなど縮小傾向が見受けられます。経過観察が必要と考えます。

５ページをご覧ください。純移動の状況を地域別、年齢別に見たものです。純移動とは転入から転出を引いたものです。

２０１２年から２０１５年までを単年度で表示しています。１０代、２０代のマイナスが顕著なことがわかります。

６ページをご覧ください。純移動の状況を理由別に見たものです。就職、進学、結婚などに理由によるものは転出を超過し、退職などの理由によるものは転入を超過していることがわかります。

以上でございます。

(足立会長)

ほとんどマイナスという傾向にあります。特に若い方の流出が非常に多いということが資料からもわかります。

この人口の状況につきまして、質疑がございますか？

(委員)

事前に問い合わせていたのですが、３ページの各地区の人口減少と高齢化率についてですが、資料には各地域の過去分のみが示されています。過去分の人口推移はこれからのシミュレーションをする場合のゼロベースとしての役割があると思います。しかし、地域ビジョンの作成の場合は、やはりこれからがどうなるのか？地域ごとにどんな推移をしていくのかが非常に重要になってくると思います。安来地区以外では地域ビジョンの作成が非

常に活発であると聞いています。ぜひその活動のベースとして次回、テクニカルとしては非常に難しいと（事前に）回答を戴きましたけれど、次の機会には資料を追加してもらいたい。要望でございます。

（足立会長）

（事務局）いかがでしょうか？

（事務局）

委員から事前にお問い合わせいただいております、回答もしておりますが、委員からもご指摘いただいたとおり、テクニカルの問題があると思います。今後の推計をするにあたってどういう前提条件を作るのかということがあります。単純に今の状況が続いていくという推計を作るのか？人口ビジョンの時も社人研（国立社会保障・人口問題研究所）という組織が作ったときに転入転出は縮小傾向になるという前提で人口の推移を作っています。このように前提条件をどのように設定するのかを踏まえて向かっていかなければいけないと考えています。本日は資料がそこまで調わなかったということは申し訳なかったかなと思います。テクニカルな部分もありますので今後の課題と考えています。

（足立会長）

ほかにいかがでしょうか？

＜他の委員からの質疑なし＞

無いようですので次の議題に向かいたいと思います。総合戦略事業ということでこれから本題の議論になります。この総合戦略事業の評価という、現在進行形である事業についてまずは評価をしてみるという、ただこれだけの資料から評価することは非常に難しいかとは思いますが、評価について何かわからない、こういうことを知りたいことがあれば追加として求めていただくということで、考えています。この総合戦略というのは人口問題に特化して行っているわけですし、ある程度人口を増やす、あるいは維持していく、減少を少なくしていく、それをするにはどうすべきかということできています。そこでもう1つ総合計画というものがあります。こちらはすべてのことを盛り込む訳です。総合戦略の中でやはり続けていくべきかどうかともあわせてお考えいただきまして、総合計画ではやっても総合戦略でもそれほど重要視しなくてもよいのではということもあれば、ご意見をいただければと考えています。あと、評価の議論が終わりましたら、意見交換の時間も設けております。事業についても、それ以外についても委員の皆様にご意見を述べて頂きたいと思います。この総合戦略事業についてはまず評価に的を絞って事務局の説明をいただき、皆様に議論していただきたいと思います。それでは（事務局説明を）お願いします。

（事務局）

それでは総合戦略事業について説明いたします。

総合戦略については、目標達成するため様々な事業を行っています。お手もとの資料は平成27年度及び平成28年度の総合戦略事業一覧、実施計画及び実績報告書、平成27年度の事業総括表をお配りしています。

総合戦略は、PDCAサイクルにより効果検証を行うこととしております。従ってこの

議題では平成27年度の実施計画及び実績報告書と事業総括表について説明させていただきます。説明する事業についても国の交付金を充てた事業を中心に説明させていただきます。

平成27年度安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略実施計画及び実績報告書をご覧ください。総合戦略事業のうち、重要業績評価指標を設定した事業を掲載しております。重要業績評価指標はKPIといい、「施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標」をいいます。事業の実績欄には平成27年度の実績を掲載しています。このKPIに対する実績から内部評価欄では◎○△×の自己評価を行っています、評価方法は、1ページ目の右上に記載してあるとおりです。行をグレーで色づけしているのが、国の交付金を充てて行った事業を示しています。今回は、この交付金を充てて行った事業について説明いたします。

子育て応援サイト事業です。この事業は、子育て情報を発信する「ママフレ」というWEBサイトを活用するものです。目標としては年間80件のメールマガジン登録者を目指していましたが、38件に留まっており内部評価は△です。引き続き周知を行っていきます。

一般不妊治療助成事業です。不妊治療を受けた夫婦に対し、保険適用の一般不妊治療及び検査、人工授精の自己負担額の一部を助成する事業です。目標値60件に対し59件と目標に近い実績でしたので内部評価は○です。助成制度に対し認知が深まった結果と考えています。引き続き行ってきます。

3ページをご覧ください。みんなで子育て応援事業です。オリジナル婚姻届、子育て支援マップの作成、出生に伴う記念品の贈呈などが事業内容です。オリジナル婚姻届、子育て支援マップの作成が遅れたため目標300人に対し230人に留まりました。内部評価は○です。今年度は昨年度、試作品の製作で終わった出生に伴う記念品の選定を行います。

6ページをご覧ください。ふるさと寄附推進事業です。ふるさと寄附を管理するシステムを導入するとともに品数の充実などを行いました。品数、新規販路開拓ともに目標数値を上回っているため内部評価は◎です。

7ページをご覧ください。創業支援事業です。創業支援として、創業・事業継承セミナーの開催、ビジネスコンテストの実施、チャレンジスペースの貸し出し、アドバイザーの雇用を行いました。実績は5件と交付金申請でも目標値には届かなかったものの一定の効果があつたとして内部評価は○としています。今年度はビジネスコンテストでの事業のブラッシュアップを行います。

8ページをご覧ください。新・ご当地グルメ開発事業です。安来市の新しいスタイルのメニューの開発を行いました。参画店舗は6店舗と目標値を上回っていますが、開発途中ということで内部評価は○としています。

10ページをご覧ください。3世代世帯定住推進補助事業です。三世代世帯、新婚世帯を対象に住宅取得、増改築に係る経費の一部を助成しました。事業そのものの実績値は111人と目標値の45人を大幅に上回っていますが、他の定住促進事業の実績ともあわせ

て内部評価は○としています。平成２８年度は補助内容を拡充して実施します。

１１ページをご覧ください。定住サポートセンター事業です。定住に必要な仕事・住まい・生活情報を一元的に収集・提供すると共に、定住相談、定住後のアフターフォローの実施など定住対策のワンストップ化を行いました。相談窓口を通じた移住者は６８人のため、この部分の内部評価は、△、定住相談については目標を上回りましたが、お試し住宅の利用者が無いためこの部分の内部評価は、○としています。移住者の増に努めてまいります。

１２ページをご覧ください。福祉専門学校就学補助事業です。市内事業所の介護従事者が介護福祉士の資格を取得する際に事業主へ補助を実施しました。利用実績人数は３人で目標値を下回りましたので内部評価は△としています。

１４ページをご覧ください。地区交流センター活性化事業です。各地区交流センター単位での地域活性化推進、地域ビジョンの作成、地域リーダーの研修派遣を実施しました。地域ビジョンの策定や地域づくり実践研修会など目標値を上回っていますが、把握できていない数値もあるため内部評価は○としています。

同じく１４ページ、生活交通ネットワーク再編事業です。生活交通網の再編、地域コミュニティと連携した生活交通網の構築を行います。１便あたりの平均乗車数など一定の効果が見込まれたため内部評価は○としています。

続いて事業総括表をご覧ください。先ほどは基本目標の各事業について説明しました。こちらの事業総括表は、それらを踏まえた基本目標ごとの評価です。

基本目標１は、実績値が２７３人から目標達成可能な結果のため、内部評価は○としています。保育料軽減や不妊治療費助成の拡充などを引き続き行ってまいります。

基本目標２は、各事業自体は順調ですが、実績値がマイナス１０１人と転出超過が拡大しているため、内部評価は△としています。工業団地の新設などを進め、実績値の向上を目指します。

基本目標３は、実績値は６人とプラスに転じているので内部評価は○としています。住宅取得支援など定住施策を引き続き推進します。

基本目標４は、実績値は未実施ですが、地域おこし協力隊の受け入れ、地域ビジョンの作成など事業は順調なので内部評価は○としています。引き続き事業を推進します。

以上で説明とさせていただきます。

（足立会長）

ありがとうございました。今の市からの説明では各事業のうちの国庫補助を受けたもののみをピックアップして説明されました。もちろんそれだけが今回の評価の対象ではなくて、この国庫補助を受けたもの以外も対象となります。ですからすべてに置いて皆様目の止まる、何かお気づきになることがあれば話していきたいと考えています。

その評価をする前に一度、副会長の毎熊先生に注意点をお願いします。

（毎熊副会長）

失礼します。蛇足になるのかもしれませんが、先程来から話がでていますとおり、評価

というのは色々できますよね。今日のこの資料をご覧になられて皆さんいかに話しをしようと思っておられる、色々な方がおられてご意見があると思いますが、例えば事業評価というのをよくやります。例えば先ほどのご説明だと最初にあった「子育て応援サイト事業」というのがありますけど、それを細かくみるのが事業評価ですね。よく話題になった事業仕分けというのがありますけれども、民主党政権時代にあったですけれども、これは1つ1つの事業をとりあげて効率的に行われたかどうか、無駄使いがないかどうか、目的を達成することができたか、ということを見ていくわけです。そういう評価方法があります。

これをよろうと思ったら、これ（事業が）何個ぐらいですかね、100ぐらいですかね、むちゃくちゃあるんですね。これをやるというやり方があります。一方、先程からやっている国の事業についてご説明があったのは、これ専門用語で言うと「業績測定」といいます。もともと掲げていた目標に達成したかというのをみる。例えば○×、あるいは通信簿の1から5でみる、達成したかどうかをみる、全体的によいのか悪いのかということを行う。これがいわゆる「業績測定」というものです。いま説明にあったやつです。これがおそらく国が求めているもの。さらに別のことでいうと、だぶん皆さんの関心は、私の関心もそうですが、さきほどの「子育て応援サイト事業」でいうと基本目標1の数値目標の出生数をあげるにある1つの事業ですうよね。ほかにもいっぱい事業がありますけれども。この「子育て応援サイト事業」が果たして出生数を上げるのにどのくらい役立つのかというのをみる。こういう評価です。これは通常「施策評価」といいます。これはしっかりと因果関係を観ていかなければならない。応援サイトをみました、人々がこういう行動をしました、その結果として子育てに励みました、子づくりに励みましたということがあったとこれ役に立っているのではないかということになる。役に立っていないければ、いかに効率的な運用がなされていても出生数に関係ないではないかということになる。いらないという話になる。こういう評価もとても大事になる。これは非常に大変です。因果関係をみななければならぬので。ほかにも色々なタイプがあるわけですが、ではここでどのような何を評価するのかというのが定まっていません。これは個人的にはしっかりとやらないと行けないと考えています。まさしくこの会議で皆さんの意見をうかがいながらどういう評価をしていったらよいのかという議論をしていきたいと思っています。ただしこれは時間がないので今日は意見交換のところでできたらどうかと思っています。今の議事となっているのはおそらく市役所の人の考えとしては国に報告しなければならないのですよね。国からお金をもらっているものについては、国からお金をもらってこういう結果になっています、さきほど説明した業績測定の結果をださなければならない。だから内部評価でやっておられる○×△というのを国に伝えなければならないので、ひとまず国の事業、10個ぐらいを市役所は△をつけているが×ではないかとかい○でよいではないかとか、というのを今日はやるのかなと思います。ただこれも十分な資料があるわけではなくて、皆さんの感覚とか事務局に色々聞きながらになると思いますけれども、今日はそこをやって、それ以降は意見交換をやって、どんな評価をやっていくべきだろうか？またこの会としてやれるのか？やろうと思ったら大変です。できることとやるべきことを見極めるということ

を意見交換でできればよいかと思います。

(足立会長)

以上、説明をいただきましたところで進めていきたいと思いますが、まず1枚ものの「平成27年度安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業総括表」があります。基本目標というものがあまして1から4まであります。この基本目標1「若い世代の結婚・出産・子育てを支援する」というところ、議論するにあたって、基本目標1から順にやっていきたいと思います。重点的には国の国庫補助を受けた事業についてやってみたいと思いますけど、そのあとそれ以外の事業について気がついたことはないですかということを伺ってみます。

まず「子育て応援サイト事業」について皆さんの意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか？

(委員)

項目的にという訳ではないのですが、全般的なことに関係するので意見を述べさせて頂くのですが、評価方法ですがこの◎○△×という評価方法はですね、基本的にPDCAを回していく、副市長さんの挨拶にもあったように、このPDCAをいかに回していくのが重要だという風に仰ったのですが、そのPDCAを回していくには評価自体が曖昧になっている、○でも数値目標を達成していないものがいっぱいあるわけですが、じゃあ×ではないか、ここの評価方法を曖昧にしておくと、やはり期中にPDCAを何回転したのかが一番重要なわけで、そのサイクルの勢いをこの評価方法が曖昧なことによってちょっと減らしていくのではないかなという風に思います。やはり数値目標、定量目標を設定したのであれば、達成したのかそうでないのかをまず明確にして次につなげる、アクションにつなげるのが重要だと思います。

(足立会長)

評価方法については1ページ目の右上に記載してありますように、例えば○であれば7、8割達成又は最終的に達成できる見込みがある場合は○という風に定義しています。それよりもきちんと判断したほうがよいということでしょうか？

(委員)

そうです。そこを曖昧な形にしないほうがよいと思います。

(足立会長)

事務局はどのようにお思いでしょう？

(事務局)

委員のご意見ももっともな部分もあります。評価方法については、事務局内部でも悩んできました。はじめは言葉で「達成は困難である」「達成の見込みがある」の表現を試行してみたりしました。KPIを設定しているのであれば数値、定量的な部分もありますので、そこについて達成できたのかできなかったのかが大きな判断の1つとなります。KPIをご覧いただきますと、例えば「一般不妊治療助成事業」でいいますと、基準値は平成26年度の54人に対し、目標60人、これは5年間の平均です。これに対して平成27年度

は59人でした。5年間の平均で目標を掲げているので、初年度として（最終的に）達成可能ではないのかという判断をしています。我々として悩ましいのは初年度での判断をどうするのかです。初年度で数値がすごく悪い場合、これは問題ではないかという事になりますが、（数値が）そうでない場合、事業を継続していくのか改善していくのかということになると思います。曖昧部分ではありますが、評価方法をご覧くださいますと数値的なもの、何割程度を保っていたのか？目標数値は上回っていなかったが基準値からは上がっているから△と評価しているものもありますし、残念ながら実績が基準値を下回ったものは×というものもあります。曖昧に思える部分もありますが、付け方としては定量的な評価はできると事務局としては考えています。

（足立会長）

ありがとうございます。今のところは会長の職権でこの定義にある評価方法で進めたいと思います。内部評価で△○がついていますが、この事業は△でなく○でないか、×ではないか、◎でない、委員の皆様それぞれを出していただくことにしたいと思います。

まず「子育て応援サイト事業」、これは新規事業ですが、これについて皆様、ご意見ございませんでしょうか？

（委員）

恥ずかしい話ですが、WEBサイトで子育てタウンママフレというのがどんな内容なのかすら分からないのでこれが実際に総合戦略の1つの武器になるのか？ならないのかすらも分からない。「不妊治療」とかは分かりやすいが、これがどういうものか、本当に活用して定住対策になるのか？人口増につながるものなのか？わからないし、これ（ママフレ）はどこが運営していて、安来市の子育てをがんばっているお母さん方に対しての発信というのは、PRはどういう形でやっているのか？わからない。

（足立会長）

「子育て応援サイト事業」についてもう少し説明を事務局お願いします。

（事務局）

子育てタウンママフレというのは、安来市が独自にこのサイトを立ち上げているというものではございません。民間団体が運営されているサイトです。その中に全国的な子育て情報もありますし、安来市についての情報も並列的に一括でみれるように準備したサイトです。要は子育てに関することはここを見たらわかりますよというようなことを目的として構築したものです。中身の事業については子ども未来課で情報を掲載しています。入口として安来のHPのトップページからママフレのサイトにいけるような形で運営しているものです。

（委員）

米子と安来を比較できるという機能もあるのでしょうか？

（事務局）

比較ということはできません。

(委員)

下手に比較ができると安来より米子のほうがよいという、逆効果もあったりすると不味いのかなと思ったりしたのですが…

(事務局)

ママフレは全国の自治体がやらなければならないものではありません。子育ての情報を集約してシステムを使用して情報発信をしていることです。全国のものが一覧になって見られるものではありません。

(委員)

それに230万円かかったということですか？登録料的なものがかかっているのでしょうか？

(事務局)

初年度ですので運営費のほかにも構築費が入っています。

(委員)

保育園や幼稚園の保護者の方にこういったものがありますよというような発信はしてもらえるのですか？

(事務局)

各種健診の際にPRをしております。何ヶ月健診とかの折に情報提供しています。

(委員)

それをしても登録者数は38件ということですね。

(事務局)

メールマガジンの登録者がそこまでだったということです。

(委員)

わかりました。

(足立会長)

サイトのアクセス数なども指標になると思いますが、そういのは把握されていますか？

(事務局)

実績としては18,071件となります。

(足立会長)

これはどのくらいの期間でしょうか？6ヶ月ぐらいですか？

(事務局)

構築したのが年度の途中でしたので、通年ではございません。

(足立会長)

ほかに何かございませんか？

(委員)

このアクセス数は、安来市の住民だけですか？

(事務局)

全国でのアクセス数となりますが、よその自治体の方が見にいかれることは余りないと

思いますのでほぼ安来市民と考えてよいと思います。

(足立会長)

登録者数でみるのかアクセス数でみるのか色々意見が分かれるところですが、内部評価としては△というところですか。この評価についてはどうでしょうか？

(委員)

始まったばかりなのでよいのか悪いのか分からないというところではないのでしょうか？

(足立会長)

何かほかに判断できる資料がありますか？

(每熊副会長)

確認ですけど、国に報告するのは、外部評価はどのように報告するのでしょうか？○△でしょうか？

(事務局)

内部評価につづき、外部評価、委員の方からの意見はどういうものがあつたかを記載することになります。

(每熊副会長)

必ずしも○×はつけなくてもよい。

(事務局)

K P I の達成に有効かそうでなかったか、その理由や意見を記載することとなっています。

(每熊副会長)

無回答ということもあるのですか？先ほどの議論を聞いていてもわかりませんよね。ゆっくり細かく見ていかないことには。つかむものはつかんでおいて定性的に、ご意見があつたようにサイトは作つたがうまくいっているか？うまくいかなければもう少し力をいれなければいけないというのを書いて済むのであれば、○×を決めるのは難しいと思います。

(足立会長)

そうですね。なかなか分かりにくいですね。地域ごとのアクセスなどもできると思いますので、そういったところも気をつけていただきたいと思いますし、もう1つは安来市のHPは非常にわかりにくい。目的のところに達成するためにわかりにくくて右往左往してしまうアクセスマップがきちんとしていない。そこもあわせて改善の余地があると思います。

次に進みたいと思います。「一般不妊治療助成事業」です。ご意見ございませんか？目標値60人に対し利用者59人という結果ですが、もう少し説明いただけませんか？安来市内の医院で治療を受けられた方ということでしょうか？

(事務局)

不妊治療を受けられた方で保険適用部分の自己負担分の一部を助成したものです。市内

の医療機関に限ったものではありません。

(足立会長)

いかがでしょうか？

(毎熊副会長)

すみません。本来、目標を立てるときに議論しなければならなかったのかもしれませんが。目標自体がどうなのか60人希望していて60人ならよいのですが、200人いるのに60人となると不十分ですね。そもそもそういうことがわかるのかもわかりませんが、最近、自分の身の回りもそうだけれども一般的にも増えてきていると聞きますので本来ニーズがどのくらいあって目標値がどのくらいあってどのくらい達成できたかというふうに考えないといけないのかなと思います。

(足立会長)

そのあたりは何か資料がありますか？

(事務局)

資料はこちらにはありません。

(足立会長)

わかりました。次回には何か資料をお願いします。次は「みんなで子育て支援事業」ですが、利用者数の目標値が300人に対して実績が230人という結果です。これについてももう少し説明を事務局をお願いします。

(事務局)

ご説明します。事業の目的ですが、結婚、出産、子育てについて安来市は合計特殊出生率2.07を目指しているのですが、現状はそれを下回っている。これに対し、結婚、出産、子育てに関する機運の醸成を目的として事業です。

実物は持ってきておりませんが、オリジナルの婚姻届を作成しました。多くの自治体で作成しておりまして、近くでは出雲市も作成しています。

あと子育て支援マップというのも作成しています。こちらは「子育てお出かけマップ」という名称で安来市内の飲食店や買い物の関係の店舗で子育ての関係で配慮している所、「こっころカード」でサービスを提供しているような所、安来市内にもそういう店舗がございます。そういうサービスをしている店舗を中心にマップに載せていましてPC、スマホなど、ガラ携以外のネット環境があれば、だれでも見ることができる仕組みです。サイトに入りますと名称や分野から検索していただくと情報をみることができるものです。

出生に伴う記念品ですが、平成27年度は試作品の作成で終わってしまったというものです。誕生された子どもさんに対して「あなたは安来で生まれた子どもなんだよ」というバックボーンを作る形でそういった安来で生まれたことがわかるようなストーリーが描けるような記念品が作れないだろうかということで試作品を、ちいさな子ども用のイスを目指していたのですが、残念ながら試作品で終わりました。

実績は婚姻届を使用された件数、お出かけマップは新規アクセス数を足すと230人になります。目標300人には満たなかったという状況です。

(足立会長)

ご意見はございませんか？230人は婚姻届などすべてを足した結果ですか？

(事務局)

そうです。

(足立会長)

こちらでも次回、婚姻届の実物やマップの状況などペーパーに落としてご提示ください。

基本目標1について、国庫補助の事業は以上でしたが、ほかにも事業があります。この中で何かお気づきの点などがございましたらご発言ください。

(委員)

事業のひも付きのものですが、認定子ども園への移行数ですが、実績報告書には無かったのですが、どこをみればよいでしょうか？

(事務局)

KPIとしては上がっているのですが、移行するにあって（それに特化した）予算が発生していなかったものです。この表には掲載しておりません。

(委員)

掲載されていない場合があるのでしょうか？

(事務局)

事務経費等にかかるのですが、放課後児童クラブ新設事業のようにハード事業などがなかったことによります。それでこちらの表に上がってこなかったということになります。

(足立会長)

よろしいですか？

(委員)

はい

(足立会長)

ほかにご覧いただけますか？

(委員)

これ以外のことでもよろしいでしょうか？

(足立会長)

よろしいです。

(委員)

資料で印がしてある事業は国の補助金を使ってとのことでしたが「元気いきいき補助事業」というのは聞いたところによると国の補助金を使っていると聞いています。この資料では印がないのですがどういうことでしょうか？

(事務局)

ここでの国の補助金というのは地方創生に関する先行型交付金という名称のものに限って説明をさせていただきました。国の補助金というのは色々なメニューがございます。地方創生の先行型交付金を活用させていただいた事業ということです。

(委員)

なるほど。なぜこの「元気いきいき補助金」のことを出したとしますと実際的要綱をもらって申込みをしたわけですが、要綱ではハード面については補助金対象外とは一切書いてないのです。国の内容ではハード面は対象外と書いてあるそうで、安来市が出している交付要綱ではその内容が一切書いてないわけです。生活安全及び安心活動事業とかに使えるのであればよいのだとこの要綱からは読み取れるのですが、実際には申請をしてみると申請書を書いて予算を作って交流センターの館長さんの応援文書をいただいても申し込んでもハード面では使えませんという内容があるのですが、それはこの（安来市の）要綱を書き変えないとまずいのではないのかという提案をしたのですが、その提案はどうなったか？ということとそれに似たようなものは他にはないのかということをお聴きしたいです。どうでしょうか？

(足立会長)

今のはこの事業の業績にはつながらないということですね。業績評価に特化して行っていますので。あとで意見を交換したいと思いますがいかがでしょうか？

(委員)

そのときに応えてください。

(足立会長)

基本目標1のその他の事業について他にご意見などはございませんか？なければ基本目標2の「ふるさと寄附推進事業」について、皆さんのご意見を伺いたと思います。ふるさと寄附、非常に流行っているのですけれども、これについては◎の内部評価ということになっています。皆様ご意見はいかがでしょうか？

(毎熊副会長)

説明のときに聞き逃していたのかもしれませんが、決算額の意味というのは、ふるさと寄附はどのくらい入ってきたのか？つまり儲かっているのか？

(事務局)

ふるさと寄附について、平成27年度の寄附額として136百万、平成26年度が44百万となります。

(毎熊副会長)

(決算額は) 返礼品でかかった金額ということですね。

(事務局)

返礼品とシステムの導入経費が含まれます。

(足立会長)

ふるさと納税は、いろいろなところがやっております安来市もかなり増えているようですが、内部評価でも◎となっています。

次の「創業支援事業」です。創業・事業継承セミナーの開催などですが、これについては、目標値25件に対して創業支援者数が5件。25件が累計ですから単純に5で割ると1年が5件ということで○になっている。

(委員)

この5件の内訳、支援の内訳はどうでしょうか？支援を使ったとかセミナーに参加したとか、具体的な支援を教えて欲しいのですが。

(事務局)

今のご質問は具体的な中身についてでしょうか？

(委員)

そうです。

(事務局)

個々の創業の内容については、ここでは把握しておりません。支援を経て創業に至ったケースと聞いています。

(足立会長)

創業に至ったケースですか？

(事務局)

そうです。

(事務局)

この事業は商工会議所に委託しています。そこでセミナーを実施してチャレンジスペースに出店されたり、市内の空き店舗に入られるとかで創業されたものです。それぞれの業態についてはここではわかりません。

(足立会長)

他にご意見はございませんか？

(每熊副会長)

創業支援者数って何ですか？創業件数ということですか？

(事務局)

商工会議所でセミナー等を開催して支援したということです。イコール創業された方になります。

(每熊副会長)

そうですか？何か変な表現ですね。わかりにくいですね。

(足立会長)

創業支援などを受けられた方への支援とかは何かあるのでしょうか？

(事務局)

これ自体が交付金でして、この交付金を商工会議所に委託して事業を実施しています。

(足立会長)

この決算額がすべてそうですか？

(事務局)

商工会議所が負担金を取られるなどがあると思います。手元に要綱がないので詳細はわかりませんが

(足立会長)

5件にこの金額を補助したのでしょうか？

(事務局)

補助については、市の別のメニューがありますので、創業のセミナーに参加されてチャレンジスペースに出店される、中心市街地の空き店舗に入られる。空き店舗について市の補助金があります。そういうものを使っている可能性はあります。

(足立会長)

それについてもどういう風にお金、補助金が使われているのか？空き店舗の改修費などがあるかもしれません。そういったものが分かればまたご用意いただければと思います。

これについて他にございませんか？

(委員)

創業支援者5件ということですが、こういう中心市街地を含めたまちづくりをする場合は止められた方とのバランスが大切だと思うのですが、評価の仕方というのがただ目標に達したからというのはどうかと思いますがいかがでしょうか？

(足立会長)

止めたというのは？

(委員)

廃業されたという方です。

(足立会長)

廃業者と創業者のバランスということですね。

(事務局)

定住のサイドの廃業された方の情報は把握していないのですが、数字を捕まえるとしたら商工会議所あるいは商工会から資料を提供してもらい、個名は別として年度内に商工会議所や商工会の会員をどのくらい脱退されたかを把握すればある程度はわかると思いますが、それは今手元にはないです。

(委員)

評価方法の話で、止めた止めていないではなく、評価する際の数字の取り方の問題とします。そういうのも加えていただくと変わってくるのではないかと思います。

(事務局)

見て対比ということですね。

(委員)

そうです。

(事務局)

記載の仕方が、廃業者がこれだけいて、逆に創業者はこれだけいるという。

(委員)

一定の評価があったというのは難しくて、そこまで踏み込んでいただくと分かりやすい。

(足立会長)

ありがとうございます。予定時間が1時間30分ということでしたが、すみません。も

う少し進めさせてください。

「新・ご当地グルメ開発事業」というのがありまして、324万円の決算となっております。これは色々なものが組み合わさって評価が○になっていますが、これについてご意見はございますか？

(委員)

これだけグルッとまとめられて評価といっても、このペーパーの書き出しだけをみても評価のしようがない。

(足立会長)

はい。それに対して今後どういう資料を出していただきたいのでしょうか？

(委員)

何を新しいメニューができあがって、それをどういう風に活用しているのか？例えば観光の入込客数って、これって根本的に人口増減にどう関わりがあるのか？私は教えていただきたい。ふるさと納税もそうですけれども、お金を寄附していただくので安来をPRして認めていただいて寄附をいただくのは大いに、安来市の財政の面も含めて有効だと思います。それが安来市に移住してこようか、定住しようかということにつながるのか、よく理解ができない。この事業もその面をとらまえて考えれば、何が有効なのかわかりません。そこら辺を教えていただきたい。

(足立会長)

そのことについては、議論の1つとして、人口に対して本当に有効なものだけを入れていくのか？あるいは直接つながらないけれども総合戦略に入れていくべきなのか？議論をしていく話ですので、必要ないのではないということであれば市の方でも検討していただく形にしたいと思います。

それは時間があればあとでお願いしたいと思います。

基本目標2について国の国庫補助以外の事業がありますが、これらについて何かございませんか？

<他の委員から特になし>

それでは先に進みます。基本目標3ですが、「三世代世帯定住促進補助事業」というものがあります。三世代の世帯についてその住宅取得、増改築に係る経費の一部を助成するとなっています。これについては決算額が2400万円となっています。助成を受けられた市内定住者111人、補助件数72件とみればよいのでしょうか？

(堀江係長)

住宅の補助件数と定住者と2つKPIがありますので、住宅支援は、家賃助成とかがあります。その部分を含めたものが補助件数、三世代世帯に特化したKPIの方が定住者となっています。

(足立会長)

それに対する実績はどうでしょうか？

(事務局)

目標値４５名にたいして１１１名という実績が出ています。これは市内定住者ですので
ＵＩターン者の数ではありません。もともと市内に三代で安来市におられた方が同居を
始める方も含まれてきます。

(足立会長)

この数ヶ月の結果ですか？１１１人申し込まれた？

(事務局)

１年間のですね。平成２７年度１年間で活用された方の世帯構成がわかりますので、結
果として１１１名だったということです。

(足立会長)

はい。これについて皆様どうでしょうか？

(委員)

具体的に人口でいくら増えたのでしょうか？横すべりでかわらないのか？

(事務局)

具体的に市外から何人の人が入ってきたのかですが、最終結果が分らないですが、途
中経過で１８人は把握していたと思います。

(委員)

それは２７年度？

(事務局)

２７年度です。

(委員)

１８人？

(事務局)

この制度に関してはですね？２７年度全体で定住サポートセンターを通じてであれば６
８名という結果がでています。

(委員)

この補助金を使って家を建てられた方、家を建てて定住された方は何人ですか？

(事務局)

１８名までは把握していたと思いますがその後は分らないです。

(委員)

これを活用された方は１８名？

(事務局)

１８名以上だと思います。

(足立会長)

次にはそのあたりの具体的な数値もご提示ください。

ほかにはございませんか？

＜他の委員から特になし＞

次に進みます。「定住サポートセンター事業」、定住対策のワンストップ化という事業で、

移住者数の目標値 126 人に対して相談窓口を通じた移住者数が 68 人（内部評価は△）。先行型交付金としてお試し住宅の利用件数 10 件の指標に対して 0 件。相談は 172 人ということで○になっている。これについてどうでしょうか？

（委員）

2 点ほど質問です。こちらの事業は途中から立ち上げられたものですが、移住されました 68 人のうち就職された件数がわかれば教えてください。もう 1 つは定住の相談室で 172 人ということで、こちらの相談で移住に至らなかった理由というかそのようなものが何かわかっていらっしゃれば教えてください。

（事務局）

はじめの質問の就業の関係ですが、68 名。小さな子どもさんからすべてということで職について細かな統計は持っていません。

あと、定住に至らなかったケースについてですが、窓口相談にこられた方、東京、大阪、広島などで定住相談、フェアなどを行ったところの人数ですが、窓口相談にこられる方は非常に真剣ではありますが、定住にまで結びつかなかったというのがまず 1 つ。定住フェア、定住相談会ということになると来場される方のお気持ちでしょうか、とりあえず情報収集だけという方もおられれば、本当に安来市で住みたい、例えば安来で農業をしたいなど色々な体験をして次のステップに進みたい方、色々なお気持ちの方がいるので最終的に定住に至らなかった。明確に数値で把握しているわけではありませんが、実施に定住フェアの結果などをみていると、相談に来られる方に温度差があると考えています。

（足立会長）

はい。また何か分かる数値があればご用意いただきます。

他にございませんか？

<他の委員から特になし>

次に進みます。「福祉専門学校就学補助事業」ですが、利用した人数が、目標値 75 名、単年度 15 名に対して 3 名、資格取得予定者も 3 名ということで△になっている。これについてはいかがでしょうか？△は妥当でしょうか？

（委員）

これ資格取得予定者ですよ。資格は取得していない？

（事務局）

そうです。

（事務局）

介護事業所については、経験を積んで介護福祉士になったり社会福祉士になったりします。年数を積んで事業所から送り出してもらわないといけないので、事業者側にも人的な余力がないといけない、その上で補助金を打っているわけですが、そういったものでもない事業者側もなかなか送り出せない状況があります。就職して次のステップにいかうとする人もそのあたりがなかなか難しい。資格取得をして次のステップに向かっていただくための補助金と考えています。

(足立会長)

この基本目標 3 については国庫補助を受けた事業以外にもありますが、それらもあわせて何かございますか？

＜他の委員から特になし＞

(足立会長)

次に基本目標 4 ですが、これについては国庫補助の事業は「地区交流センター活性化事業」という事業ですが、これも色々な指標がありましてそれに対する実績がありますが、概ねよいということで○となっています。これについてご意見などございますか？

(委員)

今まで発言をしていないのですが、交流センターの代表で来ております。これに対しては知識があるといいでしょうか、経験をしておりますのでお話をしたいと思います。昨年度初めての事業でございました。端的にいいますと○でよかったと思います。

昨年度荒島交流センターもこの事業に参加しました。そこではここでいいますと地域づくりに関する講座といいましょうか、その部門に参加しました。趣旨は交流センターが主体的になって地域の課題を見つけてですね、他の団体の援助をするのではなくて、交流センターが中心になって各団体に呼びかけて事業を展開することで、まあ画期的なやりかたではなかったかなと思います。

ただ、課題はですね、評価とは別になりますが安来市内には 24 の交流センターがございます。まちなかの大規模なものもあれば山間部の小規模なものもあり、地域間の差があります。一義的にこれでやりなさいといわれても職員の数とか、各地域の関心度などいろいろ地域の格差がありますので、今年度も計画されていますのでしばらく続くのではないかと思います。なかなか累計で 24 箇所、全館でやりなさいということですが、進んでいくと手が挙がらない交流センターについては非常に重荷になるのではないかと思います。これは実感ですが、27 年度につきましてはそれぞれ、私どもがやった地域づくり 5 館手を挙げておられます。それから地域ビジョンの作成も 5 館手を挙げておられます。計 10 館やっておられるますので評価的にはよかったのではないかと思います。最後の地域づくり実践研修会参加者 243 名と書いてございますけれども、これも総括として 2 月に実践をした各交流センターが発表会をしまして発表をしなかった交流センターも含めまして、一般の方々それと島根大学からも学生がいらっしゃったようです。そういうことで関心度が高い研修会、最後のまとめとしてはよい会ではなかったのかなと思います。◎は無理でも○の評価でよかったのではないかと思います。以上です。

(足立会長)

ありがとうございます。委員の実感ではこの地域づくりという目標に対して効果があったという位置づけでよろしいでしょうか？

(委員)

はい。

(足立会長)

ほかにご意見はございませんでしょうか？

＜他の委員から特になし＞

（足立会長）

それでは「生活交通ネットワーク再編事業」ということですが、この1便あたりの平均乗車数はイエローバスのことでよろしいでしょうか？イエローバスの1便あたりの平均乗車数として6.4人であったと連携事業3件に対して1件の実績であったと。連携事業はどのような内容でしょうか？

（事務局）

連携事業というのはイエローバスの便が悪いところ、皆さんの移送をどうするのかということで、具体的には地域間交通といって地元の方に車を提供して試験的にやっていたかどうかというそういった事業です。

（足立会長）

宇波地区ですか？

（事務局）

そうです。

（足立会長）

みなさんお分かりかどうか、イエローバスの便があまりよくない場所について地域の方が連携して車をだすという事業に予算を出しているということですね。ただこれは目標に対して1件であったと。これに対してご意見はございますか？

＜他の委員から特になし＞

（足立会長）

基本目標4の国庫補助の事業はこれで終わりですが、この補助事業以外の事業を見通した上で何かございますか？

＜他の委員から特になし＞

（足立会長）

例えば新規就農者数の目標値20人は5年ということであれば4人ですが、それに対する就農者数は2名で○となっていますが、これだけを見れば50%の達成率です。○という評価の仕方はいかがでしょうか？

（委員）

個別の項目のことではないのですが、最初に言った評価方法は妥協するとして、少なくとも各事業のPDCAは一回は回っているはずであるから、目標の数値を達成していないものは今後どうやるから○なんだ、大丈夫なんだということを最低限追加しなければならない。それを説明すればもう少し分かりやすくなると思います。

（足立会長）

まさにそのことがいいたくて質問をしたのですが、やはり○とした場合は7～8割達成ということになっているからにはそれ以下についてはそれ以上であってもかもしれません。やはり見込み、○をつけた理由を少し付加していただければと思います。

ほかにはありませんか？

＜他の委員から特になし＞

（足立会長）

これでざっと網羅したところですが、実は今年度この会は1回だけということですが、消化不良なのでもう1回は最低必要なことがわかりました。次は少し時間を延長して、やり方は考えて、もう少し突っ込んで、概要が分かったと思いますので意見をいただくようにしたいと思います。

最後、時間が少なくなって申し訳ございませんが、さきほどご意見として委員からいただきました補助事業に対しての要綱が正しくないのではないかということがありましてそれについてはこちらの課（定住企画課）ではなのですね？

（事務局）

こちらの課です。

（足立会長）

そうですか？それについては考えていただくと

（事務局）

あとでもよろしいでしょうか？会終了後に個別にお話しさせていただいてよろしいでしょうか？

（委員）

構いません。それもそうですが私がいいたいのは、他の事業にもそういう内容が含まれていませんか？要は国から降りてくる補助金は私たちはそんなに見れないのです。ただ突っ込んでやってみるとそれはできないといわれても我々は見えないところなんです。そういうのはここの中にないですねということをお聞きしたい。

（事務局）

地方創生の交付金については、元気いきき補助金ですけれども、地方創生推進交付金としてはハード事業については、50%以下ぐらいの割合でしか認めない。基本がソフトが中心となる。

（委員）

50%は認められるわけですね。

（事務局）

内容や物によってですけれども。推進交付金については国が判断してくる。基本が全体の50%以上はだめ。

（委員）

個別の案件はいいのですが、中が見れないので、国からの補助金の内容と我々が安来市から使わせてもらう内容の中に要綱の違いが明らかに判断を私はしましたけれどもほかにはないのかどうか？誤りがあったり理解に対して違いがないのかということです。

（足立会長）

それについてはチェックしてもらおうということで保留というかまたご返事いただければ

と思います。このほか委員からあった総合戦略にいれなくてもよいのではという事業についてはいは？

(事務局)

答弁させていただきたいのは、観光産業は裾野が広い事業でして 1 つをとらえると人口対策では無いのではないのか言い方をされますけれども観光振興により交流人口が増えれば、裾野が広いですので宿泊業やそこに納入する業者であるとかに幅広く波及効果がある。そういう意味では観光振興は人口対策の一部という位置づけであり、1 つのツールとしてご当地グルメの開発があったということでご理解をいただきたい。

(足立会長)

はい。市のお考えとしてそういうことであると。もう一度議論の場は持ちたいと思います。

最後になりますが何か意見がございますか？

(委員)

評価、見直しをするにしてもこれだけのお金をかけてこれだけの成果だという投資というか費用対効果をですね。それにも視点を充てるのは間違いなのではないでしょうか？これはもうこれだけのお金をかけるんだということが決まって、こうなっているんだという話と思ってよいのか？例えば 1000 万かけて 2 名しか増えていないではないかとかですね、それならこっちに金かけてほうがよいのではないかとそういう意味合いですが…

(事務局)

それも 1 つの評価の仕方には入ると思います。ここを出しているのはそういう評価の仕方ではなく、目標値があってこれだけの実績があると。いま委員が仰ったとおりそこには予算的な裏づけがありますので、これだけ突っ込んでいいのかということにもなりますのでそれは恐らく 9 月の市議会のなかでも評価をしますでそこではこれだけ予算を突っ込んだのにこれだけの成果しか上がっていないのかという指摘が市議会議員からはあると思います。それは事務局としては考えていくということになります。今年が 1 年目ですのでこれが 2 年目 3 年目となったときに果たしてこれでいいのかというこの場でもそうでしょうし、あるいは議会の場でもいわれるでしょうし、あるものについては方向変換、あるものについては止めていくという将来的にはでてくる。やはり予算をこれだけ突っこんだというのも評価の対象になろうかと、特に議会の場ではそういう風になろうかなという風に思います。

(委員)

そうですか。ここではあくまでも K P I の達成度ということでよろしいのでしょうか？決算額は余り見ないでいいのでしょうか？

(事務局)

ここではそうです。おそらく議会の場ではそういう話がでてくるのかなという気がしております。

(委員)

わかりました。

(足立会長)

今回の会の中では委員の言われるようなお金に対するいろいろな指標があると思いますので、それは委員の皆様からご意見をいただきながらやっていただきたいと思います。指標については、目標指標を定めてやっております。それに対しての評価もあるのが市民としての目というのもこの会の役割ではないかと思いますので、もちろんお金、費用対効果のこともやはり指摘があれば指摘していくと思います。

(事務局)

次の議会では、議会で報告したあとの会になると思いますので議会でいただいた意見も報告しなければならないと、それをもって意見をいただくことになると思います。

(足立会長)

ありがとうございます。予定した時間が過ぎてしまい申し訳ございませんが、これで今回の会議は終了したいと思います。事務局からは何かありますか？

(事務局)

本日は、長時間にわたりましてご審議いただきありがとうございます。委員の皆様については謝礼の関係で書類の提出などがございますのでお手数ですが会の終了後、少しお残りください。

今後の予定につきましては本日就任していただきました会長、副会長と相談させていただきながら委員の皆様にご連絡させていただきますのでよろしくお願いします。

以上でございます。

(足立会長)

ありがとうございました。